



遠鉄バスの色々な秘密とは!!

遠鉄バス秋葉線新聞
2年生

秋葉線年表

- 1920年 万歳自動車商会、浜松～二俣線を他会社から引き継ぎ、二俣～犬居路線運行開始
- 1923年 秋葉自動車商会、二俣～犬居路線を買取、本格運行開始
- 1931年 二俣～犬居路線 一日8往復
- 1935年 秋葉自動車商会、遠州電気鉄道(株)に吸収合併
戦争により、石油不足と軍事優先のため、多くのバス路線が休止となる
- 1940年 陸軍統政令が出され、多くの交通機関への制限が強くなる
浜松地区の民間バス会社三社が遠州電気鉄道(株)と合併
- 1943年 5月 5社が合併し、静岡鉄道(株)誕生
10月 遠州電気鉄道(株)を筆頭に10社が合併し、遠州鉄道(株)誕生
1950年までには主要バス路線は復旧ただし、復旧路線の中に二俣～犬居路線の名称はない。二俣町に住む方は昭和20年代に西鹿島～車道、車道～春野と、途中で車道で乗り換えることで移動していたと話している
遠州鉄道50周年記念誌、春野町史より
- 1952年 犬居にバス車庫設置
- 1956年 遠鉄バス 二俣～下百古里路線運行
- 1959年 遠鉄バス 秋葉線 大平まで運行開始
遠州鉄道40周年記念誌より

秋葉線の利用者やルートなど

秋葉線を日常的に利用する人には春野校舎の生徒や西鹿島駅を起点とした利用者、磐田方面への利用者などがいる。他にも、秋葉神社へ観光しに行く利用や、下島バス停からのハイキングの参加者も利用している。時刻表やバスが走るルートは利用者数や、交通量、地域の特性を考慮して決まる。それが関係しているのか、秋葉線には国道を迂回して走っている区間が3箇所ある。

1つ目は、上只来～境之沢の区間である。この区間は山を越えるトンネルを通らずに、山の麓の集落の中を通る。2つ目は、横川中～おいだいら入口の区間である。この区間も国道沿いの集落の中を走っている。3つ目は、和田之谷～犬居郵便局の区間である。この区間では、秋葉神社下社へ参拝しやすくしたり、犬居地区に住んでいる人の利便性を上げるために、迂回しているのだろう。

遠鉄バスの運賃は乗車距離で決まり、認可を受けた上限運賃の範囲内で、乗車バス停から離れるほど高くなる。



https://bus.entetsu.co.jp/search/routemap_akibasen.html

運転手さんにいろいろ聞いてみた

- Q バスの運転手になった理由は?
- A 父親が貸切バスの運転手で、仕事で温泉に行ったり、美味しい物を食べたりと楽しそうだったから。
- Q なくてもいいと思うバス停、あるいはあったほうがいいと思うバス停はあるか?
- A なくてもいいと思うバス停はない。あったほうがいいと思うバス停は自分の家の前。
- Q 平均して、1日に何時間運転するか、あるいは何回運転するのか?
- A 平均して6時間15分から20分程度。
- Q 運転手になってつらいこと、良かったことは?
- A つらいことは、他の人と休みが合わないこと。良かったことは、いろいろな道を知ることができて、信号のタイミングがわかるようになったりすること。どんな人が乗るのか観察するのが楽しかったり、乗客との関わりができたりと、たくさんの良いことがある。



気になるバス停ランキング!!

- その1 山東**
他のバス停周辺と比べると栄えていると感じる
- その2 秋葉橋**
橋の近くにあつて、周囲に見える春野の山々が魅力的である
- その3 おいだいら入口**
周りに何も無い、利用する人を見ることがない

